

# JACET中国・四国支部 Newsletter

## 第 15 号

### 目次

1. 巻頭言	支部長 松岡 博信	pp.1-2
2. 2015 年度春季支部研究大会報告	大会実行委員長 堀部秀雄	pp.2-3
3. 2015 年度支部第 2 回役員会報告	事務局幹事 平本 哲嗣	p. 4
4. 2015 年度支部研究会 OPP-第 54 回 JACET 国際大会報告	OPP 代表 岩井 千秋	pp.4-5
5. 2015 年度秋季研究大会発表応募要領		p.5
6. 2015 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集		p.6
7. 事務局だより		p.6-8
編集後記		p.8
<b>【重要】</b> ニュースレター (NL) 配信についてお願い		p. 9

## 1. 巻頭言

中国・四国支部長 松岡 博信

中国・四国支部会員の皆様。いつも大変お世話になっております。

本支部は、昨年度の広島市立大学における JACET 第 53 回国際大会開催という大役を無事に終えて、今年度は例年通りに 6 月と 10 月にそれぞれ春季および秋季支部研

究大会を開催する計画で、既に予定どおり 6 月 6 日 (土) に広島工業大学において春季大会を開催し、12 件の発表をいただきました。秋季大会は 10 月 24 日 (土) に松山大学において開催される予定で、既に多くの方から発表の申し込みをいただい

す。年間を通じて、多くの方々に本支部研究大会でご発表いただき、心より感謝申し上げます。

さて、今夏の8月29日(土)から8月31日(月)にかけて、JACET 第54回国際大会が鹿児島大学にて開かれました。その数週間前から桜島の噴火騒ぎで大変な上に、同じ土日に関ジャニ(ジャニーズ)のコンサートがあり、本当にホテルの予約が困難な状態でした。私は28日(金)の午後には会議がありましたので、広島駅を新幹線さくらで朝早く出発したのですが、隣の座席の10代らしき女性が、着席するなり関ジャニのDVDを観始めて私と同じ鹿児島中央駅で下車しました。改めてジャニーズの人気と動員力の凄さに圧倒されました。

私は結局、鹿児島市に3泊4日滞在しましたが、広島市と同じく路面電車がよく発達しており、宿泊したホテルが遠方であっても会場への往復は大変楽でした。ほとんどすべての行事、講演、発表が英語で行われるためか、年々外国人の参加者が増えているように思います。数名の外国人会員の

方に尋ねると、JACETは外国人の方々から高い評価を頂いており、評判が良い、と異口同音に述べておられました。

中国・四国支部からは岩井千秋副支部長(広島市立大学)が代表であるOPP(Oral Presentation & Performance)研究部メンバーによる「協働学習(祭り)によるオーラルプレゼンテーションの教育的効果」と題した共同発表もあり、メンバー間の結束の強さをよく示していました。この研究会メンバーの中には支部役員の方々も多く、役員間の団結もこの研究会の活動によるところが大きいと常を感じています。毎年12月に開催されますので、各大学の学生たちによる大変楽しい英語パフォーマンスをぜひともご観覧いただければ幸いです。

私たち中国・四国支部役員は、これからも中国・四国支部活動の充実を目指して尽力する所存でございますので、今後ご指導・ご鞭撻、そしてご支援のほど、どうかよろしくお願いいたします。

(安田女子大学)

## 2. 2015年度春季研究大会報告

大会実行委員長 堀部 秀雄

2015年度春季研究大会は、6月6日(土)広島工業大学 Nexus 21 で行われた。

はなから自分の話で厚顔を晒すようだが、単なる会場準備係りのつもりで気軽に会場校を引き受けたのだが、プログラムに「実行委員長」のタイトルがついているのを見て、そんな大役だったのかと、遅ればせながら緊張した。結局会場準備以上の事は何もしなかったけれど。

厚顔ついでに勤務校の自慢をさせていただくと、メイン会場に選んだのは10階のスカイテリアという多目的ホールで、ここは南側が全面ガラス張り、広島西部の市街

地と瀬戸内海を眺望できる。幸い好天に恵まれ、初夏の日を浴びたパノラマが眼下に広がり、宮島の弥山の稜線が鮮やかだった。「素晴らしい眺めですね」と多くの方に言っただき、まるで自分が誉められたようないい気分だった。

さて大会は、平本事務局長の開会宣言、松岡支部長の挨拶から始まり、研究発表が全部で12件、2室に分かれておよそ3時間半に渡って行われた。

発表内容は支部のホームページをご覧いただくことにして、ここでは私なりに各発表のキーワードを拾い、勝手なコメント付

して、報告とさせていただきます。

#### 第1室

1) 「英語教育における文化的側面の教育の面白さと必要性」特に文学作品の中の人称代名詞の使用パターンに焦点を当てた研究。「言語と文化」は英語教師の永遠のテーマであろう。

2) 「スピーキングの練習とテストのためのサイト開発」コンピュータでスピーキングの練習をさせ、さらにそれを評価するシステムの開発。この分野の進歩には目を見張るものがあるように思う。

3) 「英語の授業は英語で？」現在最も重要なイシューの一つに取り組んだ研究。高校での現状はどうか？それを受けて今後の大学の英語教育どうあるべきか？

4) 「コンピュータによるインタビューで発話力を測る」このシステムではスキルの現状把握と目標設定に力点が置かれる。コンピュータによるモチベーションの持続と学習環境の継続は重要な課題である。

5) 「英語教師に求められる英語を評価するツール」英語で授業をするためにはどんな教室内英語が有効なのか？そしてそれはどのようにして高められるのか？これも今緊急の研究課題であろう。

6) 「OPP を通じた協働学習活動」本支部のイベントとして毎年回を重ねている **Oral Presentation & Performance**—その内容報告とアンケート調査による教育効果の検証。「祭り」の効果はいかに？

#### 第2室

1) 「英語授業での洋楽の活用」確かに洋楽は授業の活性化に役立つ。ここでは特に英語を苦手とする学生に興味・関心を持たせるための有効な活用法の紹介。

2) 「映画英語の台詞から構築された語彙リスト」検定教科書を通して学ぶ語彙と実際の日常会話で頻出する語彙を比較・分析。「映画をどう使うか」に有益な示唆。

3) 「Moodle・WBT の活用と反転授業」アクティブ・ラーニングが全面的に推奨される中、「反転授業」も現在の最も重要なキーワードの一つである。CALL 教室を活用しての効果的な実践例の紹介。

4) 「ピア・フィードバックによるライティング指導」学習者主体の授業展開においてピア・フィードバックも注目される。これは特に文章の **organization** に焦点を当てたユニークな研究。

5) 「辞書の語義と連想」辞書を読み、例文を吟味することの重要性の確認とそれによって読者がどんな連想するかについての考察。辞書なしの外国語学習などありあえないと私は思うが、最近の大学生はどれくらい使っているだろうか？

6) 「日本人学習者のための英語音声ガイドラインの構築」発音と聞き取り能力の到達目標の **Can-Do** 記述と、学習初期段階における優先的習得目標の明示。CEFR でも音声については詳述されていないので、その意味でも重要な研究。

以上のように発表内容は多岐多様だが、日本人英語学習者の立場に立ってどのように英語教育を前進させるかという熱意は全てに共有されていたと思われる。また、お互いから学び合おうとする協働意識・連帯感も会場全体で強く感じられた。この支部が大切にしている風土であると言えよう。

付言するに、この大会では司会を立てずに、各発表者が時間を管理して進めるという方式が取られた。基本的に遅延なく進行したが、質疑応答の時間がやや少なく、やはり司会はあった方がいいかなと私は思った。

17時30分、岩井副支部長の閉会の挨拶で無事終了。皆様、本当にありがとうございました。

(広島工業大学)

### 3. 2015年度JACET中国・四国支部

#### 第2回役員会報告

事務局幹事 平本 哲嗣

2015年6月6日(土)に開催された第2回支部役員会にて、2015年度の事業計画について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

#### 1) 秋季研究大会

日程：2015年10月24日(土)  
場所：松山大学(愛媛県松山市文京町4-2)  
大会テーマ：未定

#### 2) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：2015年12月13日  
場所：安田女子大学

#### 3) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第13号)  
発行：2016年3月31日(予定)  
・支部ニューズレター  
発行：2015年9月30日(第15号)、2016年1月20日(第16号)(予定)

### 4. 2015年度支部研究会 OPP

#### 第54回JACET国際大会報告

OPP代表 岩井 千秋

支部研究会として発足した Oral Presentation & Performance (OPP) の教育・研究の交流活動が7年目を迎えました。支部会員の皆様のご理解、ご支援をいただきながら、その成果を国際大会で発表できるまでに成長したことを関係者の一人として、心から喜んでいる次第です。8月に鹿児島大学で行われた第54回国際大会では2つの発表の機会をいただきました。ひとつはJACET大会組織委員会で企画されたポスターセッションでの発表、もうひとつは三熊祥文先生(広島工業大学)、二五義博先生(海上保安大学校)、山中英理子先生(広島国際大学)による一般発表での研究発表でした。

まずポスターセッションですが、JACETには2015年度現在で全国の支部に42研究会があり、国際大会の企画では全国の研究

会に参加の呼びかけが行われ、そのうち28研究会の参加があったそうです。発表ポスターは三宅美鈴先生(広島国際大学)、山中英理子先生(同)にご協力いただき、大会初日(8月29日)の朝一番で掲示しました。ポスターは3日間ずっと掲示しておくことになっていましたが、ハイライトは30日の12~13時の説明会でした。OPPではこれまでに6巻の報告書を作成し、研究成果を皆様にお伝えしてきました。会場で配布できるよう、過去の報告書を約50部持参しましたが、すべて配布することができました。当日は、これまでOPPに参加いただいた先生方にも会場にお越しいただき、一緒に来場者への説明をしていただきました。お陰さまで、私たちのブースは来場者が途切れることもなく、全国の多くの会員の皆様に私たちの活動を知っていただく機会と

なりました。ブースでご協力いただいた先生方全員に心からお礼申し上げます。

もうひとつの研究発表ですが、ありがたいことに OPP は 2014 年度に日本学術振興会の科学研究に採択されました。研究としての取り組みは、三熊先生を代表として現在 7 名で行っていますが、鹿児島での発表はこの科学研究の成果の一部についての報告でした。OPP の取り組みはこれまで年に一度のイベントを開催するので手一杯でしたが、昨年辺りから少しずつ研究としての取り組みも導入し始めています。現在の研究は、OPP 型の協働学習を通じた英語学習のメリットを具体化し、その教育的意義を

理論化することに主眼を置いています。端的に言えば、参加教員や学生が何となく感じている OPP 活動の盛り上がり、動機や参加意欲の高まりを単なる印象ではなく、近年の応用言語学や言語教育理論によって裏づけ、私たちの活動に説明力を持たせようとする試みです。研究の成果は、今後も継続して本学会などを通じて発表していきたいと考えています。今後とも皆様にご支援、ご助言いただけることを願いながら、この夏の OPP の活動についてお便りさせて頂きました。

(広島市立大学)

## 5. 2015 年度秋季研究大会発表募集要領

6 月 6 日(土)に開催された第 2 回支部役員会にて、2015 年度秋季研究大会について話し合いが行われましたので、お知らせいたします。

支部秋季研究大会

日時：2015 年 10 月 24 日(土)

場所：松山大学

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

- a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語
- b. 種別 (Style) : 自由研究発表、実践報告、事例研究など
- c. 氏名 (Name) :
- d. 研究領域 (Research Area) :
- e. 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。
- f. 所属 (Affiliation) :
- g. 使用機器 (Equipment needed) :
- h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2015 年 9 月 30 日 (水)  
午後 11 時 59 分まで

■申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください(発表、および懇親会への参加申込ができます)。

<http://ws.formzu.net/fgen/S24955388/>

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML、および支部 HP でお知らせします。(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 三宅 美鈴  
m-miyake@it.hirokou-u.ac.jp

## 6. 2015年度『JACET中国・四国支部研究紀要』投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定

いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り：10月末
- 審査結果通知：12月末
- 修正原稿締め切り：1月末
- 刊行：3月末

送付先：紀要編集委員会委員長  
平本哲嗣(安田女子大学)

E-mail: [hiramoto@yasuda-u.ac.jp](mailto:hiramoto@yasuda-u.ac.jp)

## 7. ～事務局だより～

昼間はまだ暑さを感じるものの、朝夕は随分と過ごしやすい気候となってきました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、私はこの6月をもって支部の事務局幹事の任期を迎えました。新しい幹事は広島国際大学の三宅美鈴先生がご担当くださいます。大学教員も多忙を極める日々を過ごしているわけですが、学会の事務局を担当することは、この多忙化を加速させる以外の何ものでもありません。学会の仕事は本務校の業務の上に加わるものであり、学会の事務作業をするからといって、本来の業務が減るわけでもありませんし、お手当も出ません。では何が学会事務担当者を支えているのかというと、「学問を続ける土壌、文化を維持するのが、教育者・研究者としての社会的責任だ」という使命感だと思います。

事務局を担当していて学んだことの一つに、教育・研究活動の基盤維持に伴う負担をみんなで共有することの大切さが挙げられます。私自身、支部事務局の担当となった時には自

分にできるのだろうかと途方に暮れたのを覚えています。しかし、多くの方々に支えていただきながら、沢山のことを学び、そして(微力ではありますが)皆様の教育・研究活動のお手伝いのできたのではないかと考えています。中国・四国支部もさらに多くの方々の協力をいただきながら、より学びの多い豊かな支部活動にしたいと願っています。

私は支部事務局幹事の仕事からは離れますが、これからは支部紀要編集担当となります。先日、支部のメーリングリストでご案内しましたが、論文投稿については支部ホームページに記載しております(執筆申込締切が9月末日、原稿提出が10月末日です)。自らの研究・教育活動を世に問う絶好の機会です。会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

中国・四国支部では研究大会・研究会等のご案内を支部HPをはじめ、葉書やメールにてお知らせしております。異動された会員の方は、所属・地位、メールアドレス、住所などを、事務局本部 [jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp) までご連絡ください。

それではこれからも中国・四国支部をどうぞよろしく願いいたします。

★新入会員紹介★

2015 年度の新入会員をご紹介します。  
(2014 年 10 月から 2015 年 9 月まで)

Lingley, Dana

柴田 美紀  
森川 光与  
千田 健二  
安部 由美子  
住吉 晃  
藤村(ウィルソン) 香子  
小崎 順子  
バタソン ディビッド  
長谷川 真紀  
畑井 淳一

Cowie, Neil

中崎 崇  
タファナー ロバート (敬称略)

どうぞよろしく願いいたします。

★2015 年度支部人事★

2015 年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、どうぞよろしく願いいたします。

【支部役員】

支部長 松岡博信 (安田女子大学)  
副支部長 岩井千秋 (広島市立大学)

支部幹事 (\*は事務局幹事)  
\*三宅美鈴 (広島国際大学)  
高橋俊章 (山口大学)

支部会計担当者  
田辺尚子 (安田女子大学)

支部研究企画委員  
五百蔵高浩 (高知県立大学)  
池野 修 (愛媛大学)  
岩中貴裕 (環太平洋大学)

上西幸治 (広島大学)  
折本素 (愛媛大学)  
角山照彦 (広島国際大学)  
小山尚史 (岡山大学)  
高垣俊之 (尾道市立大学)  
高橋俊章 (山口大学)  
瀧由紀子 (松山大学)  
田中博晃 (広島国際大学)  
田辺尚子 (安田女子大学)  
田淵博文 (就実大学)  
寺嶋健史 (松山大学)  
鳥越秀知 (香川高等専門学校)  
中山晃 (愛媛大学)  
二五義博 (海上保安大学校)  
西田 正 (福山大学)  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
堀部秀雄 (広島工業大学)  
三熊祥文 (広島工業大学)  
三宅美鈴 (広島国際大学)  
山川健一 (安田女子大学)  
ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 松岡博信 (安田女子大学)  
岩井千秋 (広島市立大学)  
総務委員会 (支部事務局幹事)  
三宅美鈴 (広島国際大学)  
財務委員会 (支部会計担当者)  
田辺尚子 (安田女子大学)  
国際大会組織委員会本部  
山川健一 (安田女子大学)  
『JACET 通信』委員会  
鳥越秀知 (香川高専)  
学術出版委員会紀要担当  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
学術出版委員会  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
セミナー事業委員会 サマーセミナー担当  
田淵博文 (就実大学)  
研究促進委員会  
岩井千秋 (広島市立大学)  
国際交流委員  
堀部秀雄 (広島工業大学)  
大学英語教育学会賞運営委員会  
池野 修 (愛媛大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★  
『支部紀要』第14号  
2016年3月31日刊行（予定）

『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』  
2016年1月31日（第16号）発行（予定）

### 【編集後記】

皆様、今年のシルバーウィークはいかがお過ごしでしたか。私は、シルバーウィークの前日まで海外研修の引率でアメリカの Loma Linda という町に10日間おりましたので、今年は家でゆっくりと体力の回復に努めておりました。歳の割にはさほどの時差で苦しむこともなく、すぐに回復。（カラ元気か）。

さて、この Loma Linda という町ですが、ロスアンゼルスから車で2時間程東の内陸に位置しており、Loma Linda 医科大学という大学病院を中心とした町です。その大学内の放射線、臨床検査、臨床技師関連の施設と病院見学が今回の研修の大きな目的のひとつでした。大学病院ですから、風邪などの外来患者ではなく、もっと深刻な症状の検査や入院患者がおられました。しかし、いわゆる日本の病院の匂いは全くしません。静かで、無臭で、ロビーなどはホテルのようでした。入院は平均で3日程だそうです。これは、入院費が高いということが大きな要因のひとつと言えるでしょう。保険制度が日本とは異なり、個人がどれだけ保険を掛けているかによって治療が異なってきます。訪問した時には、ちょうどチーム医療の一環であるミーティングが行われていました。ひとりの患者に対して、心理カウンセラー、理学療法士、看護師、栄養士などが、支援の方法や退院の時期などを相談していました。その患者の経済的な

面も考慮しての相談です。できる範囲内で目一杯のケアをしようというものです。患者だけでなく、その家族の方々への心理面からの支援もしっかりされているようでした。このチーム医療と支援の仕方がこれからの日本の医療が参考とすべき点でしょう。最新医療や最新設備も重要でしょうが、やはり、人の支援が一番ということでしょうか。

たった10日間ですが、毎日、体の大きな人ばかりを目にして過ごしたせいか、かなり甘いものや食事の量を気にせず「え〜い」と食してしまいました。そのおかげで、日本の空港に着いたとたん、現実に引き戻され後悔しきりです。なんと日本人の華奢なこと。

後期授業もはじまります。皆さま、どうぞお体にご留意いただき、（とりあえず）年末までがんばりましょう。



(MM)



**【重要】**

JACET(大学英語教育学会)中国・四国支部ニューズレターの配信について

中国・四国支部 支部長  
松岡 博信(安田女子大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ( <http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/> )に入る。
3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。

- ・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？  
すでに登録している    希望する    希望しない  
(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

- ・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がございましたら、事務局幹事の平本(hiramoto@yasuda-u.ac.jp)までお問い合わせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第15号 2015年9月30日 発行 発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 松岡 博信) 編集 : JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴 発行所 : 〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 心理科学部 コミュニケーション心理学科 三宅 美鈴 連絡先 : Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp
---